

みよし果樹グリーンな農業推進協議会(愛知県みよし市)

1 産地の概要

- <対象地域> みよし市
<対象品目> ナシ
<産地の現状・課題>

みよし市では、基盤整備された農地にナシ、ブドウ、カキの果樹産地が形成されている。
近年、一部のナシ生産者では、ハダニ類防除薬剤の効果が弱まり、ハダニ類防除が困難になっており、令和3年に生物農薬(ミヤコカブリダニ)を試験的に利用したところ、十分な防除効果が得られた。本年度は、実証ほを拡大して効果を検証する。
みよしのナシ産地では、基盤整備されたほ場が多いが、部分的に排水不良で水はけが悪い部分がある。抜本的な改善は難しいため改善の取組はあまり行われていない。

2 検討体制

- <みよし果樹グリーンな農業推進協議会構成員と役割>
・みよし市果樹組合(実証ほの設置、技術の実証)
・あいち豊田農業協同組合(農業者・実証ほの調整、事務局)
・愛知県豊田加茂農林水産事務所(事業実施手続き、検証に係る調査、技術支援、産地戦略のとりまとめ、マニュアル作成・情報発信)
・みよし市役所(実証成果における資材助成、産地戦略の周知)



ミヤコバンカー®設置
ナシほ場



電動オーガによる穴
開け作業ともみ殻
くん炭施用

環境に配慮したナシづくりにマニュアル
～ミヤコバンカー®の利用～

1. ナシ園のハダニ類、困っていませんか?
ハダニ類の被害はありますか? 被害が多ければ、ハダニ類防除が上手にできず、生産者の収入が減少し、ハダニ類防除が困難になります。

ハダニ類被害の発生状況
被害が多ければ、ハダニ類防除が上手にできず、生産者の収入が減少し、ハダニ類防除が困難になります。

被害が多ければ、ハダニ類防除が上手にできず、生産者の収入が減少し、ハダニ類防除が困難になります。

被害が多ければ、ハダニ類防除が上手にできず、生産者の収入が減少し、ハダニ類防除が困難になります。

被害が多ければ、ハダニ類防除が上手にできず、生産者の収入が減少し、ハダニ類防除が困難になります。

被害が多ければ、ハダニ類防除が上手にできず、生産者の収入が減少し、ハダニ類防除が困難になります。

被害が多ければ、ハダニ類防除が上手にできず、生産者の収入が減少し、ハダニ類防除が困難になります。

3 グリーンな栽培体系

<環境にやさしい栽培技術>

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬の 使用量 低減 温室効果 ガスの削 減	農薬防除	<取り入れる技術> 生物農薬利用による農薬削減
	土壌改良	もみ殻くん炭を利用した土壌改良
		<見込まれる効果> ハダニ類防除薬剤の薬剤数の削減 炭素貯留による温室効果ガス削減及び排水性の改善

<省力化に資する技術>

作業段階	新たに取り入れる技術
農薬防除	<取り入れる技術> 生物農薬資材(ミヤコカブリダニ)利用によるハダニ防除 回数削減
結果枝誘引	強力保持テープナーを用いたナシ誘引作業の省力化
<見込まれる効果> ハダニ類防除薬剤の薬剤散布回数削減 ナシ結果枝誘引労力の軽減	

4 活動内容及び今後の展開

<活動内容>
生物農薬資材(ミヤコカブリダニ)利用によるハダニ類防除効果を実証
もみ殻くん炭の土壌埋設による土壌改良、排水性の改善を実証

<今後の展開>
生物農薬資材(ミヤコカブリダニ)については、薬剤抵抗性ハダニ類がいる園や管理が遅れがちな園で設置を推進する。
もみ殻くん炭による炭素貯留技術は、排水が悪い部分の利用を検討する。